

民主化闘争情報

No. 902
2014年2月6日
発行 日本鉄道労働組合連合会
(JR連合)

日本経済新聞は、2月3日から朝刊一面で「JR北海道 偽りの鉄路」と題する記事を連載し、最初となる2月3日の記事で「人減らしや予算圧縮に主要労組(北鉄労)は反発せず、なれ合いを選んだ」と厳しく指摘するなど、先の臨時国会でも指摘された、JR北海道の「歪んだ労使関係」の実態を生々しく報じている。

JR北海道 ～不作為と甘えの果て～

「主要労組は反発せず、なれ合いを選んだ」と指摘

同記事では、「社員の8割強を握るJR総連系のJR北海道労組」と主要労組として北鉄労を紹介し、北鉄労と会社の労使関係や北鉄労の一部経営幹部との関係について非難しているほか、JR北労組が全面勝利した2004年2月の「釧路車掌所不当配転事件」にも触れている。

2月3日日経朝刊 抜粋
(中略)

人減らしや予算圧縮に主要労組は反発せず、なれ合いを選んだ。会社が主要労組を優遇し他に不利益な人事をしたとして、不当労働行為が認定されたこともある。

その後も労使交渉は緊張感を取り戻せない。

「あの人に話は通っているのか」。主要労組は技術系トップとして鉄道事業を長く掌握した当時の役員との太いパイプを盾にした。

北鉄労と太いパイプがあった当時の役員についてのコメントは控えるが、一部の経営幹部との偏った関係を盾にし、とりわけ安全問題に関して是々非々で議論すべき労働組合が会社と「なれ合って」いたことを北鉄労組合員は知っているのだろうか。

中島JR北海道元社長は(労使の)正常な緊張関係を目指す?!

また、同記事では石勝線脱線事故直後に亡くなった中島社長(当時)に関して、次のように触れている。

(中略)

乗客78人が負傷した2011年の石勝線トンネルでの脱線火災事故後、社長(当時)の中島尚俊が自殺し小樽市沖で遺体が見つかった。

「中島さんは4労組を等しく扱い正常な緊張関係を目指していた」。周囲が漏らす改革の動きも小池(会長)が社長に復帰後、影を潜めた。

(中略)

「何を目標せばいいのか」。目標を失った経営陣と人員減を言い訳に安全意識がまひした現場。労使関係は民営化直後の緊張を失う。(中略) 不作為と甘えの果てに問題が噴き出した。

私たちJR連合、JR北労組は労働組合としてのチェック機能を果たし得なかったことを猛省し、1月21日に国交省より発せされた「監督命令」および「事業改善命令」を重く受け止めなければならない。そして、JR北海道の真の再生のために、日経も指摘したように、第一組合偏重の「歪な労使関係」の正常化は避けては通れない。

私たち働く者の手でJR北海道の再生を果たそう!